



富士市田子の浦港から見る風光明媚な世界遺産・富士山

### 静岡県東部地域と喫煙習慣

全国的に喫煙習慣を止める人は、年々増えています。静岡県内も例外ではありませんが、富士地区は「健康ふじ21計画Ⅲ」(令和23年)での調査によると、男性26.7%、女性9.6%が喫煙習慣をつづけています。理由は「昔からの習慣」、「健康被害への理解不足」などが挙げられます。

富士地区の特性は、「喫煙を止めたい」と思う人が令和元年で29.7%でしたが、昨年は23.7%と少なくなっていることです。このような傾向は、時代の流れに逆行していることから、注目される一社会現象になっています。



それは、住民喫煙率が他都市に比べて下がっていないことです。そのことを象徴する出来事として、JR新富士駅前の喫煙所が撤去されないままになっていることです。

上主義に駆られた昭和時代からの時代遅れの喫煙擁護メンタリティーが遺っているのは残念なことです。

それは、市民の健康上、また世界遺産の富士を頂いている自然環境保全という点からしても、残念なことです。

一方、駿東郡長泉町の人口は4万4000人で、工場は多くありますが、住民喫煙率は低いのは、長泉町の啓発が奏功しているのかも知れません。これは、当該地区の首長・議会・産業界および地域住民が、過去のタバコ税収依存の自治体から脱却している証でしょうか。

振り返って富士地区地域住民は、喫煙問題をどの程度認識しているのかを見ると、喫煙・受動喫煙で15万人が犠牲になっている事実はご存じないことでしょうか。2024年に、「タバコ1本吸うと、寿命が22分縮む」という驚くべき研究結果が発表されました。英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)の研究グループ



喫煙対策推進 誌上フォーラム

鈴木 淳 鈴木内科医院院長

# 新連載○霊峰富士に寄り添う未来志向の喫煙対策を!! タバコ1本吸うと 20分間寿命が縮みます

はじめに

太古の昔から聳え立つ富士山は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関 J.N.E.S.C.O)が2013年6月22日に世界遺産に登録されました。大変よろこばしいことですが、登録まで20年以上掛かりました。

実際には、登山者の尿尿(にょう)処理の不備、ごみ投機問題など環境保全の状況が障害になり、推薦候補からは外れたこともありましたが、一連の手続き、現地視察などを経て世界遺産に認定されたのです。

荘厳な姿を見せる富士山は、古来より山岳信仰といった宗教的側面や、その姿に対する深い憧憬、自然との共生を重んじる伝統などを育み、日本はもとより、世界的にも多くの芸術の源泉となってきたことが評価されました。

現在、富士市の大気状態、田子の浦港汚染は、かなり解決されています。東名高速道路を走行していると、異臭・悪臭が車内に流れ込んだかつての状況を思うと、隔世の感があります。しかし、富士地区には解決すべき課題がまだ残っています。

## 2つの甚大な公害

我が国では1960年代から、公害問題が取り沙汰されました。ご多分に漏れず、富士地区でも大気汚染・ヘド

口汚染・騒音・悪臭などの問題が表面化しました。これらの問題に対し、地域住民は官民が歩調を合わせ、市内の大手製紙会社と粘り強く交渉するなど、対策を講じました。国策ともいえる経済至上主義に対し、ハッキリと異を唱え続けたのです。

## もうひとつの公衆衛生 (高い住民喫煙率)

富士市は静岡県で第3位の25万人が住居する地方都市ですが、静岡県東部・伊豆地方とほぼ同等の住民喫煙率で、健康寿命延伸を掲げる広域自治体としては、中途半端な状態にあると言えます。

プは、最新のデータを基に、タバコの本数と寿命短縮の関係を分析し、1日に1箱吸う喫煙者は、寿命が7時間近く短縮される可能性があるとして報告しています。

種々の要因で、国家的隠匿が当たり前の我が国では、住民がそうした事実と真摯に向き合えないようになっていきます。我が子が生まれた時は「健やかに育って欲しい」と願います。中・高校生までは、その教えを守ります。

社会人になり周りに影響され、タバコを吸い始めると止められません。そして、結婚して出産すると、我が子には「健やかに育って欲しい」と願います。その願いは、自分の親御さんと同じものです。しかし、喫煙社会において「健やかに育つこと」は難しいことです。

日本社会に蔓延る喫煙の因習は、不転の覚悟で断ち切らなければなりません。社会環境の禁煙化（灰皿の撤去）および児童生徒向けの喫煙防止講座は、周囲への好影響からして欠くことができません。

## 受動喫煙対策 推進を目指す

喫煙者の70%弱は、ニコチン依存の状態です。「禁煙しよう」と決意しても、容易くできるものではありません。まして、加熱式タバコの台頭で、複雑怪奇になっているのが実情です。

改正健康増進法が2020年4月1日から全面施行され、屋内での受動喫煙は、原則禁止となりました。喫煙問題は、税収との絡みもあり、「造るな」「売るな」とは言えません。しかし、地域住民に真実・現実・事実を伝え、「買うな」「吸うな」「迷惑掛けるな」ということを納得してもらうことは大切です。

市民ひとり1人の認識を変えることで、公衆衛生意識は180度変わるのです。今の時代は、敢えて貴重な納税者を演じなくても良いのです。喫煙タイムを減らすことで、街は環境美化、企業生産性の向上に繋がります。勇気と信念を持って、まずは一歩前に進めば世界水準に追いつきます。

## おわりに

霊峰富士は太古の昔から、富士地区を眺めてきました。今では世界遺産の榮譽に輝きましたが、高度経済成長の時代では、麓の工場地帯に排煙が立ちこめ、田子の浦港にはヘドロが堆積しました。それが今では、住民の声によってかなり改善しています。しかし、喫煙問題に関して富士地区住民は、前時代的な認識を宿したままです。

富士山が世界遺産であることは、目の前に広がる富士地区は聖域(sanctuary)であると解釈できます。かつて経済至上主義と闘って、勝利した先人たちに負けないように立ち向かうことを願っています。

喫煙率の高さ（公衆衛生問題）とも対峙し、これまでの利権や既得権益との決別すべきことではないでしょうか？ それが近未来の富士地区のあり方です。霊峰富士は、その時が到来することを、眼を細めて待っていることでしょうか。（つづく）